

科目名		English Communication I		英文表記	(E. Comm. I)	2015年2月24日			
科目コード		1018							
教員名:飯島淑江 技術職員名:ー						作成			
対象学科／専攻コース				学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
全学科				1年	必	履修	1単位	演習	後期
科目目標		英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度の育成を図り、情報や内容などを的確に理解し、かつ適切に伝えるためのコミュニケーション能力を養うことを目標とする。							
総合評価		1. 小テスト (20%) + 2. Reading コメント (20%) + 3. Writing (15%) + 4. Oral test <口答試験> (20%) + 5. Presentations<発表> (20%) + 6. 授業内発言 (5%) = 100% ※ 総合評価は、その合計の60%以上を合格とする。							
科目目標達成度	目標割合	科目達成度目標		達成度目標の評価方法		ルーブリック			
						理想的な到達レベル (優)	標準的な到達レベル (良)	最低限必要な到達レベル (可)	セルフチェック
	40%	① 英語を媒体として、情報や内容などを的確に理解する能力を習得する。		小テストの点数によって評価する。		内容及び語彙についてほぼ完璧な理解力を示し、小テストで9割以上の点が取れる。	内容及び語彙について高い理解力を示し、小テストで7-8割程度の点が取れる。	内容及び語彙について十分に理解をし、小テストで6割以上の点が取れる。	
	40%	② 英語で「話すこと」「書くこと」によって、実際にコミュニケーションを図る基本的能力を習得する。		Oral test、Writing、授業内発言、Presentationの点数によって評価する。		適切な文法と語彙を用いながら、流暢で正確な英語の運用ができる。	文法や語彙使用に多少の誤りはあるものの、流暢な英語の運用ができる。	文法や語彙の誤りはあるが、意思疎通が可能な程度の英語の運用ができる。	
	20%	③ 異文化について理解を深めるとともに、日本や郷土の事情や文化の類似点や相違点について考える。また異文化理解を通して自国や郷土に関する理解を深める。		Reading コメントの内容によって評価する。		異文化について深い理解力を示すとともに、日本や郷土の事情や文化の類似点や相違点についても明確に認識している。	異文化について適切な理解力を示すとともに、日本や郷土の事情や文化の類似点や相違点についても認識している。	異文化について理解力を示すとともに、日本や郷土の事情や文化の類似点や相違点についても認識している。	
本科・専攻科教育目標		1	2	3	4				
		◎	○	○	◎				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合									
		目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック	
評価項目			0	20	40	40	90		
基礎的理解		①		10	20	20	50		
応用力(実践・専門・融合)		②③			20		20		
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)		②				20	20		
主体的・継続的学修意欲		①		10					
授業概要、方針、履修上の注意		・ 英語に触れる機会を充実させ、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。 ・ 聞いたり、読んだりしたことの情報や内容などについて、英語を用いて個人、ペア、グループの単位で意見を発信し、意見の交換を行う。 ・ Task-based Language Learning(タスク中心型言語学習法)に基づいて、様々なレベルの言語力・思考力を必要とするタスクを多数こなすことによって、英語力の向上を図る。 ・ 具体的には、テキスト、ビデオ、Readingを通して、英語表現を学ぶと共に異文化理解を深め、授業内の意見交換やWritingを通して発信者としてのコミュニケーション能力を向上させる。 ・ 異文化について理解を深めるとともに、日本や郷土(沖縄)の事情や文化の類似点や相違点について考えることとし、異文化理解を通して自国や郷土(沖縄)に関する理解を深めるGlocalism精神の成長を図る。 ・ Presentation(発表)はPBL形式を用いて行い、問題解決力やチームワーク力を習得することを心がける。 ・ 毎授業、パソコンと辞書を持参する。							
教科書・教材		Globe Trotters – Practical English with Video by Carmella Lieske, Cengage Learning.							

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
1	Introduction <導入>	2	本授業の説明(目的、評価など) 授業で使用する英語表現の紹介	Writing 1	
2	Spain	2	演習 (Watch & Talk); Reading 1		
3	Peru	2	小テスト 1 (Spain) 演習 (Watch & Talk); Reading 2	Writing 2	
4	Tokyo	2	小テスト 2 (Peru) 演習 (Watch & Talk); Reading 3		
5	New York City	2	小テスト 3 (Tokyo) 演習 (Watch & Talk); Reading 4	Writing 3	
6	Antarctica	2	小テスト 4 (New York City) 演習 (Watch & Talk); Reading 5		
7	India	2	小テスト 5 (Antarctica) 演習 (Watch & Talk); Reading 6	Writing 4	
8	Oral test<口答試験> PBL	2	小テスト 6 (India); Oral test (前半学生) PBL (グループワーク: Presentation準備)		
9	Oral test<口答試験> PBL	2	Oral test (後半学生) PBL (グループワーク: Presentation準備)		
10	Africa	2	演習 (Watch & Talk); Reading 7	Writing 5	
11	Cambodia	2	小テスト 7 (Africa) 演習 (Watch & Talk); Reading 8		
12	Egypt	2	小テスト 8 (Cambodia) 演習 (Watch & Talk); Reading 9	Writing 6	
13	Italy	2	小テスト 9 (Egypt); Reading 10		
14	PBL (Presentations) <発表>	2	小テスト 10 (Italy);Presentations on Okinawan cities & cultures<前半>	Writing 7	
15	PBL (Presentations) <発表>	2	Presentations on Okinawan cities & cultures <後半>		
学習時間合計		30	実時間 22.5		
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①					
②					
③					
備考欄					